

# 都議会レポート

2020年7月～  
2021年2月活動  
**2021**  
春号

【発行元】 都民ファーストの会 東京都議団 白戸太郎事務所  
〒135-0042 江東区木場5-3-8-301 TEL.03-5809-8150 FAX.03-5620-0610

東京都議会議員 (江東区選出)

# 白戸太郎

しらと  
たろう



公式フェイスブック



公式ツイッター



白戸太郎  
公式ホームページ



**白戸太郎プロフィール** ■1966年京都府生まれ／同志社香里高校卒／1989年中央大学商学部卒業／1992年日本体育大学体育学部卒業／1995年日本体育大学大学院修了／スポーツナビゲーターとして、地域活性化につながるスポーツイベントプロデュース。 ■都議会では現在、総務委員会理事／オリンピック・パラリンピック推進特別委員会理事／東京都スポーツ振興審議会委員／スポーツ文化事業団評議員／東京都卸売市場審議会委員

**都政を進めています!** (裏面もご覧ください) →

## 2. 東京2020大会のレガシー戦略

東京2020大会を、東京のまちづくりや都民の生活向上につなげる「レガシー戦略」として取り組みます!

### しっかりとコロナ対策をした安全・安心な大会運営

入国から出国までの環境整備(アスリート等)



### 東京2020大会に向けた取り組み

#### 安心・安全

まちづくり

教育・多様性

スポーツ・健康

環境・持続可能性

参加・協働

経済・テクノロジー

文化・観光

被災地復興支援

東京2020大会後

都市のレガシーとして発展

- 新型コロナを乗り越え、成功に導くため、東京の総力を上げて準備!
- 「サステナブル・リカバリー」を新たなモデルとし、発展させる!
- デジタルトランスフォーメーション(DX)を推進し、定着させる!
- 多様性と包摂性を高める様々な取り組みを通じて、真の共生社会を実現!
- 大会で講じた新型コロナ対策の経験を、今後の対策に生かす!

## “これからのあるべき東京” 「未来の東京戦略2021」が始動!

新型コロナ対策という最重要施策、東京2020大会のレガシー戦略など、都民ファーストの会 東京都議団は小池都知事と共に提言を行なってきました。

## 1. 命と健康を守るコロナ対策

東京都では、コロナ感染症に打ち勝つ施策を実施!

東京都「新型コロナウイルス感染症支援情報ナビ」  
<https://covid19.supportnavi.metro.tokyo.lg.jp/>



東京都新型コロナウイルス  
対策携帯サイト

### 【成立! 令和2年度補正予算コロナ関連対策】

#### ① 新型コロナウイルス感染対策

- ・感染拡大防止協力金(営業時間短縮に係る協力金を含む)…………… 3,758億円
- ・患者受入に向けた空床確保料の補助…………… 1,955億円
- ・医療従事者等への慰労金の支給…………… 921億円
- ・介護、障害、児童福祉施設等における感染症対策への支援…………… 415億円
- ・宿泊施設活用事業…………… 371億円

9,600  
億円

#### ② セーフティネットの強化・充実

- ・中小企業制度融資等…………… 7,165億円
- ・生活福祉資金貸付事業補助…………… 1,965億円
- ・「東京都家賃等支援給付金」の支給…………… 440億円
- ・中小企業従業員融資…………… 62億円

9,900  
億円

#### ③ 感染症防止と経済社会活動の両立等を図る取り組み

- ・新しい生活様式に対応したビジネス展開支援…………… 117億円
- ・区市町村立学校における新型コロナウイルス感染症対策支援事業の拡充…………… 28億円

#### ④ 社会構造の変革を促し、直面する危機を乗り越える取り組み

- ・新型コロナウイルス感染症対策に係るテレワーク活用促進緊急支援 447億円

## 3. 新しい「未来の東京戦略」

新型コロナウイルス対策で浮き彫りになった  
東京の課題をもとに改革を進めます!

- テレワークの普及など暮らしや働き方の変化と同時に、デジタル化の遅れなど構造的な課題。デジタル化、モビリティ革命、脱炭素化、自然と都市機能の調和、国際金融センターなど、世界と競争できる東京へ!
- コロナ禍で疲弊した経済、社会、人々のマインドをどう回復させていくかという課題。環境と同時に、経済復興や人の持続可能な生活を実現する、「サステナブル・リカバリー(持続可能な回復)」を! コロナ以前に戻すのではなく、新たな価値創造ができる社会を!

### 例えばこんな戦略を!

- 環境** **気候危機への行動の加速!**
  - ゼロエミッション東京・水素社会実現プロジェクト
  - Tokyo Green Finance Market(仮称)の創設
  - 東京グリーンボンドの発行
  - サステナブルエネルギーファンド(仮称)の創設
- 学び** **リアルとバーチャルのハイブリッドによる、学び続けられる環境を!**
  - TOKYOスマート・スクール・プロジェクト(学び方・教え方・働き方の三大改革)
  - 新しい「東京型教育モデル」推進プロジェクト
- 芸術文化** **芸術・文化・スポーツ環境を整備!**
  - リアルとバーチャルのハイブリッドによる芸術文化の創造・発信プロジェクト
  - 芸術文化の担い手サポートプロジェクト
  - 「スポーツフィールド・TOKYO」プロジェクト

### 例えばこんなプロジェクトを!

【東京ベイeSGプロジェクト～ベイエリアを舞台に、  
自然と便利が融合する持続可能な都市をつくる～】

E=環境(enviroment)+エコロジー(ecology)+経済(economy)+画期的な技術(epoch-making)  
+S(渋沢栄一/持続可能な社会の実践)+G(後藤新平/100年先を見据えた都市づくり)

## TOKYO MXテレビ 東京都が抱える諸問題討論番組に出演!

白戸太郎が、討論番組「トウキョウもつと<sup>2</sup> 元気計画研究所」にて、『もつと自転車安全に走る東京にするために!』をテーマに問題提議をしながら議論参加します!ぜひご視聴ください。

■放送(再放送)令和3年3月28日(日)14:00~15:00

令和3年2月25日に行われた第1回定例会一般質問での白戸太郎都議による一般質問質疑応答の概要です。※質問質疑・答弁共に概略。白戸太郎の質問質疑は本文中の緑色文字。



●一般質疑応答の様子

## 01 東京2020大会開催の意義は、「多様性と調和性」を備えた、持続可能で豊かな街づくりのために。

**オ**リンピック・パラリンピック東京2020大会を開催する意義を改めて問いたい。「**コロナ禍で開催される大会の意義**」を、都民目線、国民目線で明確にしなければならない。

コロナ禍で経営も生活も苦しくなり、国や都も税収が減り、財政支出が増加している。なのに、なぜこの大会に多額の予算をかけ、医療スタッフを割いてまで行うのかという意見がある。そうした中で森前組織委員会会長の発言は、オリンピック・パラリンピックの精神にもとる不適切なものであった。

だからこそ今一度、**オリンピック憲章で掲げる「人種、肌の色、性別、性的指向、言語、宗教、政治的またはその他の意見、国あるいは社会的な出身、財産、出自やその他の身分などの理由による、いかなる種類の差別も受けることなく、確実に享受されなければならない」という根本原則や、大会が掲げる「多様性と調和」という理念を再徹底し、国際社会の理解を得ていく必要がある。**コロナ禍での開催は、「**コロナ禍の中で開催する特別な工夫を凝らした大会**」でなければならない。



●一般質疑応答の様子

### 開催意義を共有する取り組み



■コロナ禍の現在、「世界中の選手が集まる事が出来ない」、「集まれたとしてもイコールコンディションではない」という声も聞かれますが、本当にそうでしょうか。

古代オリンピックは、約2,800年前、疫病と戦争から逃れ復興する意図から始まった。1920年のアントワープ大会は、スペイン風邪と第1次世界大戦からの復興だった。また東西冷戦下、モスクワとロサンゼルスでのオリンピックに出場できなかった選手も少なくない。それでもオリンピックは開催され、世界の平和と融合を図ろうとしてきた。

そもそもスポーツにイコールコンディションなどあり得ない。自身でコントロール出来ないことは受け入れつつ、環境を作り出すことも選手の実力でもあると、私は選手時代に学んだ。

アスリートは不安を抱えながら、自分自身と闘いながら、大会に向けた準備にもくもくと取り組んでいる。私は、「**スポーツ」「音楽」「舞台や映画**」には、**人々を勇気づける力がある**と考える。先日の大坂選手や池江選手のパフォーマンスに日本中が活気づいたのは記憶に新しい。

それに加えてオリンピックは、「**オリンピズムの目的は、人間の尊厳の保持に重きを置く平和な社会の推進を目指すために、人類の調和のとれた発展にスポーツを役立てることである。**」という崇高な理念を掲げている。単にスポーツ競技のトップを決める大会であることを超えた強いメッセージがあるからこそ、東京都は大会を招致した。政府も支援し、協賛各社も応援してくれ、さらに東京に変革をもたらすからこそ、この大会を開催する意義があるのではないかと。

時代の転換点となる「**東京2020大会開催の意義**」を、東京都としてしっかりと発信していく必要があると思うが、知事の見解を。



■東京2020大会は、世界が一丸となって、コロナ禍という難局を乗り越え、人類がその絆をさらに強めた象徴となり、人々にとって希望の灯りとなる。そして、復興オリンピック・パラリンピックとして、スポーツの力で被災地に元気を届け、復興に向けて力強く歩む被災地の姿を世界に発信し、支援への感謝を伝える大会である。

都は、世界で初めて2回目の夏季大会を開催する都市として、ビジョンである「**多様性と調和**」のもと「**オリンピック憲章にうたわれる人権尊重の理念の実現を目指す条例**」の制定や、バリアフリーのまちづくりなど、ハードソフト両面からレガシーを見据えた取り組みをしてきた。このたび公表した「**未来の東京**」戦略案では、他に、5Gの活用などDX推進の取り組み等、大会後のレガシーとして発展させるための具体的な取り組みを盛り込んでいる。

アントワープ大会は、「危機の後の連帯と復興」の象徴であった。それから100年余りを経て、**東京2020大会を「サステナブル・リカバリー」を目指すオリンピック・パラリンピックの新たなモデル**として成功させたい。そして**持続可能で豊かな都民生活**に結び付けるよう、準備に邁進していく。

### ボランティアへの対応



■東京2020大会のボランティアで、組織委員会前会長の発言により辞退された方がいらっしゃるが、ボランティアは大会の一翼を担う大切な存在。辞退された方が戻れるように準備すべきと考えるが、都の取り組みを伺う。



■ボランティアは、大会の成功になくてはならない存在。これまでボランティアの方々には、オリンピック・パラリンピックの歴史や、ボランティアとしての基礎知識に加え、大会の理念や意義について共有してきた。

先日、都と組織委員会は、ボランティアの方々に対し、大会が掲げる「多様性と調和」の実現に向け、改めてしっかりと取り組んでいくことをお伝えし、**辞退のご連絡があった方にも参加のご意向をお伺いするなど、組織委員会とともに呼び掛けている。**今後とも、組織委員会と共にしっかりと取り組む。

### 選手や大会関係者への安全対策



■コロナ禍の中での開催では、選手や大会関係者にも、大会における安全対策やルールを示し、必要な医療スタッフも確保しなければならない。検疫での検査、入国後の追跡、入国後発症した場合の医療措置などに関する情報を、適切に提供し、都民、国民に理解を得る必要があるが、どうなのか。



■コロナ対策調整会議の中間整理に基づき、水際対策、入国後の移動・行動ルール、健康管理の徹底、発症時の対応などを進めている。競技団体や大会関係者には周知徹底を図っている。国、組織委員会等と連携し、ホームページ、SNS等、様々な媒体を活用して分かりやすい情報を広く発信し、都民・国民の安心につなげたい。

## 02 水辺の景観づくり・観光資源としての「旧晴海鉄道橋」の保存と活用を!



■臨海部は、都民にとって貴重な水辺空間が形成されてきている。近年では、豊洲市場の開場に併せて、「ぐるり公園」が完成。朝はランナーの聖地、昼は空と海を眺めながらゆったりと散歩できる場所となり賑わっている。ちなみに私の朝ランホームコースでもある。また晴海地区にも、水際沿いに緑道が整備されている。

豊洲地区と晴海地区を結ぶ春海橋の横の「旧晴海鉄道橋」は、かつて港と都心をつ結び、戦後日本の復興と高度経済成長を支えた臨港鉄道の一部で、歴史的価値が高い。これを遊歩道にできないか。

ニューヨークのハイラインのように、自動車用や鉄道用の橋を遊歩道化して観光資源とし、水辺空間をより魅力的にしていけるべきと考えるが、都の対策を伺う。



■建設当時の面影を残す旧晴海鉄道橋は豊洲地区の歴史的なシンボルであり、**遊歩道整備を計画している。**エリアの新たなランドマークとなると共に、豊洲から晴海地区に至る連続した水辺のネットワークが形成され、これまで以上の賑わいが創出される。都では今後も、**臨海部の歴史や景観を踏まえた水辺空間の整備を積極的に進め、臨海部の魅力をさらに向上させていく。**



■旧晴海鉄道橋

## 03 メディア戦略と効果測定を反映させた「コロナ対策広報」を!



■コロナ禍を機会に、東京都で「コロナ広報チーム」が立ち上がり、分かりやすい「**コロナ対策サイト**」ができ、デジタルから既存メディアまで統合的な広報が行われるようになった。昨年私がこの一般質問でも指摘した通り、**全ての人に情報が届く広報のあり方と、広報の効果検証などが大切。**さらに、**都のコロナ広報が市民の行動変容にどう結びつくのかという観点での効果測定も重要。**今年度から開始したGAによるホームページ分析は全庁実施を進めるべきと考えるが、都知事の見解を。



■コロナ禍においては、ターゲットを意識した戦略的な広報が重要。現在、デジタルメディアを積極的に活用し、あらゆる媒体を通じて発信の強化を図っている。私自身も都民、事業者の皆様にも、動画でメッセージや最新の情報をお届けしてきた。若年層に向けては、ユーチューバーとのコラボ発信も。ホームページへのアクセス解析ツール情報の全庁での共有や、DXの推進を機に双方向コミュニケーション型広報への転換を図り、「**伝わる広報**」を実現していく。

### 都議会議員 白戸太郎が行く!

#### ●都立病院初 新型コロナ専門医療施設が府中に開設

東京都が12月に都立多摩総合医療センター内の病棟に開設した新型コロナ専用施設を視察。現状を医療スタッフの皆様にヒアリングさせていただきました。通常医療との違い、それに対応する工夫の数々を見の当たりにして、病床増加の難しさと、関係者のご努力をあらためて知ることが出来ました。



●都立多摩総合医療センター 新型コロナ専用施設(病棟)視察の様子

### 第9回都政報告会 小池百合子都知事ゲスト参加!

コロナ対策や令和3年度予算などについてお話しします!

日時 令和3年3月27日(土) 15時~16時  
開催方法 リアルとオンラインのハイブリッド方式  
場所 江東区民センター

■リアル&オンラインとも、参加ご希望の方は、右記の白戸太郎事務所までご予約ご連絡ください。 ■今後の都政報告会の開催予定は、白戸太郎都議会議員ホームページ(右記)をチェック!

ご意見、ご要望をお聞かせください。

都民ファーストの会 東京都議団

白戸太郎 事務所

〒135-0042 東京都江東区木場5-3-8内藤ビル301  
TEL.03-5809-8150 FAX.03-5620-0610

<http://www.shiratotaro.com>  
[office@shiratotaro.com](mailto:office@shiratotaro.com)

